

資料編

- ・三戸ウェイトパーク産業廃棄物管理型最終処分場拡張事業に係る環境影響評価書
（平成27年3月）の変更について

三戸ウェイストパーク
産業廃棄物管理型最終処分場拡張事業
に係る環境影響評価書（平成27年3月）
の変更について

平成27年10月

株式会社ウィズウェイストジャパン

1. 変更経緯

平成 27 年 3 月 4 日付けで青森県環境影響評価条例第二十六条の規定による環境影響評価書の公告を行ったことから、青森県産業廃棄物最終処分場の設置等に係る事前協議等に関する要綱に基づき、最終処分場設置等事前協議書（以下「設置等事前協議書」という。）により知事との協議を行うこととなりました。

設置等事前協議書の提出にあたり添付書類及び図面の詳細設計を行ったところ埋立地内小段の排水勾配の設定により、埋立容量の減少が生じたことから切土及び盛土の法面勾配を見直し、当初の埋立容量を確保することとなりました。

それに伴い埋立処分場所の増減が生じ、最終的に埋立地面積が 900m² 増加したものです。

また、設置工事に伴う切土量と盛土量の減少により残土処理量にも変更が生じたため残土置場の形状も合わせて変更したものです。

2. 変更点

① 埋立地面積

埋立地面積の増加は 900m² です。

埋立範囲の増減について別紙「計画平面図（施設完成時）埋立面積比較図」に示します。

② 埋立容量

埋立容量の増加は 55,000m³ です。

埋立容量の増加に伴う廃棄物埋立量の増加は 14,000m³ で、覆土量の増加は 41,000m³ です。

なお、評価書において埋立容量に占める覆土量は埋立容量の 25%として算出していましたが、拡張施設の埋立地では埋立方式を既存施設のサンドイッチ方式から一日の作業終了時に廃棄物層の上面と法面に覆土するセル方式とすることから覆土量について再検討し、必然的に覆土量の増加が見込まれるため埋立容量の 28%に変更しました。

③ 土量計画

切土量の減少は 10,200m³、盛土量の減少は 2,100m³、残土処理量は 8,100m³ の減少です。

④ 残土置場の形状

変更後の残土置場の形状を別紙「土地利用計画図」に示します。

3. 環境影響評価書 第 2 章の変更点

○変更となる表・図

【表】

- ・ 表 2.2-1 事業の規模の概要等 (P2)
- ・ 表 2.2-3 埋立容量 (P11)
- ・ 表 2.2-16 土量計画 (P33)

【図】

- ・ 図 2.2-2 土地利用計画図表 2.2-1 (P8)
- ・ 図 2.2-3 縦断図 (P9)
- ・ 図 2.2-5 堰堤部断面 (P13)
- ・ 図 2.2-8 雨水排水及び放流経路図 (P15)
- ・ 図 2.2-12 管理施設等位置図 (P24)
- ・ 図 2.2-15 土工区分図 (P35)
- ・ 図 2.2-16 埋立完了後計画平面図 (P36)
- ・ 資料編-17 調査位置平面図

□変更となる表の詳細 1

表 2.2-1 事業の規模の概要等 (P2)

項目	概要		
	既存施設	拡張施設	拡張後全体
事業実施区域面積 (方法書記載面積) (m ²)	151,900 (160,900)	105,500 (108,800)	257,400 (269,700)
埋立地面積 (m ²)	41,300	(変更前)40,900 (変更後)41,800	(変更前)82,200 (変更後)83,100
埋立容量 (m ³)	737,000	(変更前)859,000 (変更後)914,000	(変更前)1,596,000 (変更後)1,651,000

◎変更の規模

新たに埋立処分場所となる面積 900m²

①拡張施設に対する割合

$$900\text{m}^2 \div (\text{変更前}) 40,900\text{m}^2 \times 100 = 2.20\%$$

②拡張後全体に対する割合

$$900\text{m}^2 \div (\text{変更前}) 82,200\text{m}^2 \times 100 = 1.09\%$$

(手続きを要しない変更の要件 10%未満)

◎浸出液処理施設計画の変更

埋立地面積の増加に伴い、浸出液調整容量について、検討を行いました。直近 20 年間 (平成 7 年～平成 26 年) の降水量データにより、増加した埋立地面積 (41,800 m²) に必要な浸出液調整容量の算定を行った結果、浸出液の調整に必要な最大容量は 8,497m³ となることから、既存の浸出液調整池の 5,000m³ を差し引いた 3,497m³ 以上の浸出液調整池を確保する必要がありますが、(添付資料「資料-4 浸出液調整容量の算出根拠 (変更後)」参照) 環境影響評価書における容量は 5,000m³ 程度を予定していたことから、今回の変更に伴う浸出液調整池を含む浸出液処理施設の規模や工法等の変更はありません。

□変更となる表の詳細 2

表 2.2-3 埋立容量 (P11)

項目	既存施設	拡張施設	拡張後全体
廃棄物埋立量	553,000m ³	(変更前)644,000m ³ (変更後)658,000m ³	(変更前)1,197,000m ³ (変更後)1,211,000m ³
覆土量	184,000m ³	(変更前)215,000m ³ (変更後)256,000m ³	(変更前)399,000m ³ (変更後)440,000m ³
合計	737,000m ³	(変更前)859,000m ³ (変更後)914,000m ³	(変更前)1,596,000m ³ (変更後)1,651,000m ³

◎埋立期間、搬入計画への影響

埋立容量の増加に伴う廃棄物埋立量の増加割合は 2%程度であり、廃棄物埋立量 (658,000 m³) に埋立係数 (1.10～1.20) を乗じた廃棄物の総搬入数量は 723,800～789,600 t で評価書において計画した総埋立量 750,000 t と同程度となることから、廃棄物の搬入台数・期間等の搬入計画の変更はありません。

□変更となる表の詳細 3

表 2.2-16 土量計画 (P33)

単位: m³

内 訳	土 量	備 考
切土量	(変更前)481,600 (変更後)471,400	詳細設計 (各小段排水勾配の設定) に伴い埋立容量の減少が見込まれたことから埋立容量を確保するため、法面勾配を切土 1 : 1.5→1 : 1.2、盛土 1 : 1.8→1 : 1.5 へ変更した結果の土量算定による。
盛土量	(変更前) 51,800 (変更後) 49,700	同上
残土処理量	(変更前)429,800 (変更後)421,700	一部を覆土材料として転用する (埋立容量の 28%程度)。

◎法面勾配変更の影響

環境影響評価においては造成工事における法面勾配の安全性に関する技術的な評価は行われておりませんが、設置等事前協議書の正式な提出前に行った協議において、地質調査結果及び土構造物の安定計算書などの添付資料により、変更後の法面勾配について確認を受けており、変更後の法面勾配の安全性については問題ないものと考えております。

4. 環境影響評価の結果に対する影響（第7章～第9章）

No.	環境影響評価項目	予測条件変更の有無	評価結果に対する影響
1	大気質	無	<p>[窒素酸化物、浮遊粒子状物質]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価書における予測条件（建設機械のユニット構成、稼働時間、稼働率）に変更はないため、予測・評価結果に変更はありません。 <p>[粉じん（降下ばいじん）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価書における予測条件（造成裸地からの粉じんの発生と風速との関係をもとに定性的に予測）に変更はないため、予測・評価結果に変更はありません。
2	騒音	無	<p>[資材等の運搬]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資材等の運搬車両台数に変更はなく、評価書における予測条件（予測断面、平均走行速度、予測交通量）に変更はないため、予測・評価結果に変更はありません。 <p>[建設機械の稼働]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価書における予測条件（建設機械ユニットの騒音源データ、評価時間、配置）に変更はないため、予測・評価結果に変更はありません。
3	振動	無	<p>[資材等の運搬]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資材等の運搬車両台数に変更はなく、評価書における予測条件（交通量、平均走行速度）に変更はないため、予測・評価結果に変更はありません。 <p>[建設機械の稼働]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価書における予測条件（建設機械ユニットの振動源データ、配置）に変更はないため、これらに関する予測・評価結果に変更はありません。

No.	環境影響評価項目	予測条件変更の有無	評価結果に対する影響
4	水質	無	<p>[工事に伴う排水]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価書における浮遊物質濃度の予測条件（仮設沈砂池及び沈砂池の規模）に変更はないため、予測・評価結果に変更はありません。 <p>[廃棄物の処理、有害物質等の使用・排出]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埋立地面積の増加に伴う浸出液量の増加は、浸出液調整池の容量増により対応し、浸出液処理施設処理水の流量及び水質に変更はないため、予測・評価結果に変更はありません。
5	水底の底質	無	<p>[廃棄物の処理、有害物質等の使用・排出]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水質の予測結果に変更はないため、予測・評価結果に変更はありません。
6	陸生植物	無	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに埋立処分場所となる区域は評価書における改変区域内であり、改変区域内に生育が確認された重要な陸生植物については環境保全措置を講じる計画としているため、予測・評価結果に変更はありません。
7	陸生動物	無	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに埋立処分場所となる区域は評価書における改変区域内であり、改変区域内に生育が確認された重要な陸生動物については環境保全措置を講じる計画としているため、予測・評価結果に変更はありません。
8	水生生物	無	<ul style="list-style-type: none"> ・水質の予測結果に変更はないため、予測・評価結果に変更はありません。
9	生態系	無	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに埋立処分場所となる区域は評価書における改変区域内であり、改変区域内で確認された注目種のノスリの営巣地については環境保全措置を講じる計画としているため、予測・評価結果に変更はありません。

No.	環境影響評価項目	予測条件変更の有無	評価結果に対する影響
10	廃棄物	無	<p>[廃棄物等の発生・処理]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価書における廃棄物等の発生・処理の予測条件（建設工事による建設副産物、伐採の対象となる樹林面積）に変更はないため、予測・評価結果に変更はありません。 <p>[廃棄物の処理]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埋立地面積の増加に伴う浸出液量の増加は浸出液調整池の容量増により対応し、浸出液処理施設の能力に変更はないため、既存施設の実績を使用した浸出液処理汚泥量の予測・評価結果に変更はありません。
11	温室効果ガス等	無	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物の総埋立量（750,000 t）に基づく受け入れる廃棄物の種類別埋立量に変更はないため、予測・評価結果に変更はありません。

添付資料

- 「計画平面図（施設完成時）埋立面積比較図」

【変更図面】

図番	頁	名称	変更理由
図 2.2-2	8	土地利用計画図	詳細設計に伴う形状の変更による。 (切土、盛土、埋立法面勾配の変更を含む)
図 2.2-3	9	縦断面図	土地利用計画図の変更に伴い変更
図 2.2-5	13	堰堤部断面	埋立法面勾配の変更 (1:2.5→1:1.8)
図 2.2-8	15	雨水排水及び放流経路図	土地利用計画図の変更に伴い変更
図 2.2-12	24	管理施設等位置図	同上
図 2.2-15	35	土工区分図	同上
図 2.2-16	36	埋立完了後計画平面図	同上
資料編-17		調査位置平面図	同上

【変更資料】

資料名	頁	名称	変更理由
資料-4		浸出液調整池容量の算出根拠 (変更後)	埋立地面積の変更による。